

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	白井克尚
2. 審査委員	主査：（上越教育大学教授） 梅野正信 副主査：（上越教育大学教授） 越良子 委員：（上越教育大学教授） 茨木智志 委員：（兵庫教育大学教授） 原田智仁 委員：（上越教育大学教授） 林泰成
3. 論文題目	1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関する歴史的研究 —郷土教育全国連絡協議会の教師たちの取り組みを中心に—
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育方法連合講座 白井克尚 氏 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>日時：平成27年2月11日（水） 14時00分～14時30分 場所：上越教育大学 中会議室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 論文の構成</p> <p>序章 本研究の目的と方法 第1章 1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造と展開 第2章 相川日出雄による郷土史中心の「新しい郷土教育」実践 第3章 福田和による地理教育を中心とした「新しい郷土教育」実践 第4章 杉崎章による考古学研究と結びついた「新しい郷土教育」実践 第5章 中村一哉による地域運動と結びついた「新しい郷土教育」実践 第6章 本研究の成果</p> <p>(2) 研究の目的と方法</p> <p>本研究では、1950年代前半における郷土教育全国連絡協議会（以下、郷土全協）の立場から取り組まれた「新しい郷土教育」実践の創造過程に着目して、歴史的研究を通してその実態を解明し、教師たちによる取り組みの特質について考察することを目的とする。</p>

これまでの先行研究の検討を通して、先行研究が十分考察を及ぼしていない 1950 年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関して、複数の代表的な実践家の事例を取り上げ、その創造過程に関わる教師たちによる取り組みの特質について検討する研究史的な課題が生じた。そこで、本研究では、1950 年代前半における郷土全協を代表する実践家として、小学校教師である相川日出雄と福田和を、また、中学校教師である杉崎章と中村一哉を対象事例とし、彼らの取り組みの特質について検討した。また、実践記録だけでなく、雑誌等に掲載された発言記録、教師個人の生活史を記した生活記録、教師による研究の取り組みを記した調査記録、関係者からのインタビュー記録、学習者による活動を知ることができる生活綴方等の複数の実践資料を用いて、教育実践を生み出した教師の経験の意味についても検討した。

(3) 研究の概要

第 1 章では、1950 年代前半の郷土全協の教師たちによる取り組みについて、理論と実践の関わりに焦点を当てて検討した。1950 年代前半のむさしの児童文化研究会によるフィールド学習においては、専門学問の理論の実践化といった関係性が存在していたことを確認した。1950 年代前半における郷土教育研究大会の開催を通じて、「新しい郷土教育」に関する実践の理論化が図られていたことを確認した。1950 年代前半における戦後の郷土教育運動の展開の中で、「新しい郷土教育」の実践に関わる理論の深まりが、現場の教師たちによる教育実践の創造過程に影響を与えていたことを確認した。本章での検討を通じて、1950 年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関わった研究者（理論）と教師（実践）との協力・共同の歴史的な実態が示された。

第 2 章では、千葉県印旛郡富里村立富里小学校久能分校の相川日出雄による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。相川による取り組みの特質として、郷土史研究を活用した教材研究が行われていたことや、郷土史教育と生活綴方を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。相川による「新しい郷土教育」実践は、郷土史中心の取り組みであったことが示された。

第 3 章では、東京都東玉川小学校の福田和による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。福田による取り組みの特質として、歴史地理研究を活用した教材研究が行われていたことや、地理教育と生活綴方を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。福田による「新しい郷土教育」実践は、地理教育を中心とした取り組みであったことが示された。

第 4 章では、愛知県知多郡横須賀中学校の杉崎章「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。杉崎による取り組みの特質として、考古学研究を活用した教材研究が行われていたことや、発掘調査と生活綴方を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。杉崎による「新しい郷土教育」実践は、考古学研究と結びついた取り組みであったことが示された。

第 5 章では、岡山県英田郡福本中学校の中村一哉による「新しい郷土教育」実践を対象として、その創造過程における取り組みの特質について検討した。中村による「新しい郷土教育」実践の取り組みの特質として、郷土研究を活用した教材研究が行われていたことや、社会科歴史教育と生活綴方を結びつけた取り組みが行われていたことを確認した。中村による「新しい郷土教育」実践は、地域運動と結びついた取り組みであったことが示された。

(4) 研究の成果

本研究の成果は、以下の三点である。第一に、郷土全協の教師たちにおける、むさしの児童文化研究会が主催したフィールド学習への参加の経験や、郷土全協が開催した郷土教育研究大会での理論の深まりなどといった要因が、「新しい郷土教育」実践の背景となっていたことを示したことである。第二に、1950年代前半における郷土全協の教師たちが、考古学・地理学・地質学といったフィールド中心の学問研究の研究手法を活用した教材研究を行うことによって、「新しい郷土教育」実践の創造を可能にしていたことを示したことである。第三に、1950年代前半における郷土全協の教師たちによる「歴史教育と生活綴方の結合」が、郷土の具体物を用いた歴史指導と、生活綴方的教育方法による「概念ください」による生活指導の結びつきによって取り組まれ、児童・生徒によって、すぐれた作文や詩を生み出していたことを示したことである。

2. 審査経過

本研究は、これまでの先行研究が十分考察を及ぼしていない1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関して、複数の代表的な実践家の事例を取り上げ、その創造過程に関わる郷土全協の教師たちによる取り組みに共通する特質について検討する研究である。

本研究の研究方法のオリジナリティは、以下の点にある。

本研究では、1950年代前半における郷土全協を代表する実践家として、小学校教師である相川日出雄と福田和を、中学校教師である杉崎章と中村一哉を対象事例とし、彼らの取り組みの特質について検討した。さらに、研究資料として、実践記録、雑誌等に掲載された発言記録、教師個人の生活史を記した生活記録、教師による研究の取り組みを記した調査記録、関係者からのインタビュー記録、学習者による活動を知ることができる生活綴方等の複数の実践資料を用いて、教育実践を生み出した教師の経験の意味についても検討するといった研究方法を用いている。以上の点には、これまでの先行研究をふまえた上での独創性が認められる。

本研究が研究史的な課題に答えた点は、以下の三点である。

第一に、郷土全協の教師たちにおける、むさしの児童文化研究会が主催したフィールド学習への参加の経験や、郷土全協が開催した郷土教育研究大会での理論の深まりなどといった要因が、「新しい郷土教育」実践の背景となっていたことを示したことである。第二に、1950年代前半における郷土全協の教師たちが、考古学・地理学・地質学といったフィールド中心の学問研究の研究手法を活用した教材研究を行うことによって、「新しい郷土教育」実践の創造を可能にしていたことを示したことである。第三に、1950年代前半における郷土全協の教師たちによる歴史教育と生活綴方の結合が、郷土の具体物を用いた歴史指導と、生活綴方的教育方法による「概念くだき」による生活指導の結びつきによって組み込まれ、児童・生徒によって、すぐれた作文や詩を生み出していたことを示したことである。これらの研究の成果は、これまでの先行研究の視点を深めた点であると考えられる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、白井克尚 氏の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。